

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火	2	1
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	4	火	2	2
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	3	月	5	3
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	4	月	5	4
東洋史各論	中国近世史の諸問題 Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	火	5	5
東洋史各論	清朝のモンゴル統治	2	岡 洋樹	5	水	4	6
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	金	2	7
東洋史各論	近世海域アジア史の諸 問題	2	新宮 学	6	火	2	8
東洋史各論	中国近世史の諸問題 Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	火	5	9
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	金	2	10
東洋史各論	中国古代刑罰制度の 諸問題	2	宮宅 潔	集中(6)			11
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	水	5	12
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	金	4	13
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	水	5	14
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	金	4	15

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB32201, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Outline History of China

3. 授業の目的と概要：

中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。

具体的には

- ・ 科挙とは何か
- ・ 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響
- ・ 科挙制度の概要 (童子試、郷試、会試、殿試)
- ・ 科挙と魯迅の作品について

以上の内容について、それぞれ2, 3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。

4. 学習の到達目標：

中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 科挙とは何か (1)
3. 科挙とは何か (2)
4. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (1)
5. 科挙がヨーロッパ社会に与えた影響 (2)
6. 科挙制度の概要—童子試 (1)
7. 科挙制度の概要—童子試 (2)
8. 科挙制度の概要—郷試 (1)
9. 科挙制度の概要—郷試 (2)
10. 科挙制度の概要—会試、殿試 (1)
11. 科挙制度の概要—会試、殿試 (2)
12. 科挙と魯迅の作品について (1)
13. 科挙と魯迅の作品について (2)
14. 科挙と魯迅の作品について (3)
15. 科挙制度の意義とまとめ

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

9. その他：なし

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB42203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Outline History of China

3. 授業の目的と概要：

中国史に関するいくつかのトピックを取り上げ、時代背景を確認しながら解説を加える。

具体的には

- ・中国史と歴史書
- ・正史と紀伝体
- ・『史記』と司馬遷
- ・正史から小説へ

以上の内容について、それぞれ2, 3回ずつ話す予定である。なお1回目はガイダンスである。

4. 学習の到達目標：

中国史における重要なトピックについて知識を深めると同時に、それらの内容について自分の意見を持つことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 中国史と歴史書 (1)
3. 中国史と歴史書 (2)
4. 中国史と歴史書 (3)
5. 正史と紀伝体 (1)
6. 正史と紀伝体 (2)
7. 正史と紀伝体 (3)
8. 『史記』と司馬遷 (1)
9. 『史記』と司馬遷 (2)
10. 『史記』と司馬遷 (3)
11. 正史から小説へ (1)
12. 正史から小説へ (2)
13. 正史から小説へ (3)
14. 正史から小説へ (4)
15. 中国史における歴史書編纂の意義とまとめ

6. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

原典 (漢文) を使用しながら授業を進めるので、予習と復習が必要。また指示した書籍の読了を求めることがある。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB31504, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N < R e a d i n g >

3. 授業の目的と概要：

中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀（隋の時代について書かれた部分）の隋代末期の記述を取り上げる。受講者は、8回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。

4. 学習の到達目標：

中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』について
- 2、隋代史概説
- 3、漢文語法概説
- 4、漢和辞典（小型のもの）を使ってみる
- 5、『大漢和辞典』、『漢語大詞典』を使ってみる
- 6、返り点、送り仮名をつけて漢文を読んでみる
- 7、『資治通鑑』の訓読、現代日本語訳の実例
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵、宋老生を破る
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（2）突厥、李淵に援軍
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（3）李淵の関中攻撃準備
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（4）李淵、関中に進撃
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（5）魏徵、李密に仕える
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（6）魏徳深と元宝蔵
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（7）河南・山東の大水害
- 15、授業の総括と試験

6. 成績評価方法：

小テスト（1～7回の授業時に実施）20%、発表内容（8～14回）30%、試験（最終回）50%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957年）。

田中謙二編訳『資治通鑑』（筑摩書房「ちくま学芸文庫」、2019年）。

ほかは、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

7回目までの授業では、配布資料をよく読んで復習する。

8回目以降の授業では、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。

9. その他：なし

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB41502, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g)

3. 授業の目的と概要：

『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文(漢文)で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。4回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についても報告する。

4. 学習の到達目標：

学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』隋紀の関連史料
- 2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方
- 3、隋唐史関係研究論文の調べ方
- 4、『資治通鑑』隋紀講読 (1) 李淵、河東を囲む
- 5、『資治通鑑』隋紀講読 (2) 李淵、長安へ進撃
- 6、『資治通鑑』隋紀講読 (3) 王世充、李密と戦う
- 7、『資治通鑑』隋紀講読 (4) 馮慈明と李密
- 8、『資治通鑑』隋紀講読 (5) 張季珣と李密
- 9、『資治通鑑』隋紀講読 (6) 于志寧ら李淵に仕える
- 10、『資治通鑑』隋紀講読 (7) 屈突通の動向
- 11、『資治通鑑』隋紀講読 (8) 柴紹の妻、李氏の活躍
- 12、『資治通鑑』隋紀講読 (9) 李淵、馮翊に進む
- 13、『資治通鑑』隋紀講読 (10) 李淵、長安に至る
- 14、『資治通鑑』隋紀講読 (11) 蕭銑の動向
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト(1～3回、最終回の授業時に実施)20%、発表内容(4～14回)80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

8. 授業時間外学習：

4回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。

9. その他：なし

東洋史基礎講読(3セメスター)と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5講時

semester：5, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB52501, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

Paul Heng-chao Ch'en 著” Chinese Legal Tradition under the Mongols” を題材にして、元王朝の法律制度を中心に、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題 Iー (1) 及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題 Iー (2) 及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題 Iー (3) 及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題 Iー (4) 及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題 Iー (5) 及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題 Iー (6) 及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題 Iー (7) 及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題 Iー (8) 及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題 Iー (9) 及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題 Iー (10) 及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題 Iー (11) 及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題 Iー (12)
14. 中国近世史の諸問題 Iー (13)
15. 中国近世史の諸問題 Iー (14) 及びまとめ

6. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：岡 洋樹 (兼務教員)

講義コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

清朝のモンゴル統治

2. Course Title (授業題目)：

The Qing Dynasty's Rule over the Mongols

3. 授業の目的と概要：

マンジュが建国した清朝 (大清国) は、17 世紀から 18 世紀半ばまでにモンゴル遊牧民の大半を支配下に入れ、中国農耕社会と遊牧民社会を統合し、安定した統治を打ち立てた。また清の支配は、ロシアの東進とともに現在に至る東北アジアの政治地図の原型を作ったという意味でも重要な時代である。本講義では、清朝のモンゴル遊牧民統治の成立過程と行政統治構造を、遊牧民社会の特質にも目を配りつつ考察することによって、東北アジア地域史におけるその歴史的意義を論じる。

4. 学習の到達目標：

清代のモンゴルについては、東北アジアの遊牧民史上、漢文のみならず、モンゴル文・満洲文の史料が多数残されている。清代は、漢文史料などの隣接地域の史料に依拠しなければならない北元期までとは異なり、遊牧民自身が残した史料を用いてその政治・経済・社会・文化を明らかにすることができるという点で、前近代遊牧民史中特異な時代である。本講義では、これらの史料を用いながら、遊牧民の社会を内在的に理解することを目的とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義では以下の内容を考察する予定である。

1. イントロダクション：清朝のモンゴル統治と民族語史料

清代モンゴル史研究で用いられる主な史料を紹介し、これまでの研究史を概観する。

2. 清朝のモンゴル統治：統治の構造とその歴史的文脈

3. 清朝のモンゴル統治：いわゆる「封禁政策」をめぐって

4. 清朝のモンゴル統治：清朝皇帝と王公たち

5. まとめ：東北アジア史の中の清代モンゴル

6. 成績評価方法：

出席 (50%) とレポート (50%) により評価する。

7. 教科書および参考書：

モンゴル史の概説

護雅夫, 岡田英弘編『中央ユーラシアの世界』民族の世界史 4, 山川出版社, 1990 年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房, 2002 年

島田正郎『北方ユーラシア法系通史』創文社, 1995 年

清代の概説

岡田英弘, 神田信夫, 松村潤『紫禁城の栄光：明・清全史』講談社 (講談社学術文庫) 2006 年

石橋崇雄『大清帝国への道』講談社学術文庫, 2011 年

清代モンゴル史の研究文献

田山茂『清代に於ける蒙古の社会制度』文京書院, 1954 年

萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』創文社, 2006 年

岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東方書店, 2007 年

そのほか

森川哲雄『モンゴル年代記』白帝社, 2007 年

8. 授業時間外学習：

上記参考書などにより、基本的な知識を得ておくこと。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代(魏晋南北朝時代、220～589)は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族
- 4、九品官人法の制定と西晋の貴族
- 5、東晋の貴族
- 6、宋・齊の貴族
- 7、宋・齊の貴族的官制
- 8、宋・齊の新興貴族
- 9、梁の武帝の改革と貴族
- 10、北魏前期の鮮卑貴族と漢人貴族
- 11、北魏・孝文帝の改革と貴族
- 12、北魏末期の貴族
- 13、北齊の貴族
- 14、北周の貴族
- 15、総括と展望

6. 成績評価方法：

小レポート(毎回の授業時に提出)30%、期末レポート70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晋南北朝』(講談社「学術文庫」2003年)。ほかは、講義中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：新宮 学 (非常勤講師)

講義コード：LB62204, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

近世海域アジア史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Various Problems of Pre-modern Sea Asia History

3. 授業の目的と概要：

1990年代以降に盛んとなった海域アジア史研究の中でも、近年の遣明船に注目した日明関係史研究は最も豊かな成果が挙げられている。授業では、天文八年(1539)遣明船の副使を勤めた五山僧策彦周良が残した日記『初渡集』(策彦入明記)の解読を通して、これらの研究成果を学ぶ。策彦とともに、五島列島を経て寧波、杭州、北京と明朝中国を旅行しながら、彼の文明理解と異文化体験を手がかりに、16世紀以降の海域アジア世界における明朝と日本それぞれの社会・経済・文化の諸相を比較考察する。

4. 学習の到達目標：

16世紀以降の海域東アジア世界における明朝と日本の社会を比較分析する方法を習得すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス 近世海域アジア史の中の日明関係史研究
- 2、周良策彦『初渡集』について
- 3、博多滞在と五島奈留出航
- 4、温州府と昌国衛入境
- 5、定海港着岸
- 6、寧波到着と市舶司
- 7、寧波嘉賓堂滞在
- 8、上京使節の交渉
- 9、杭州・蘇州
- 10、揚子江と大運河北上
- 11、天津・張家湾
- 12、崇文門入城
- 13、北京会同館滞在
- 14、宮城朝拝
- 15、まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加状況(40%) レポート(60%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：『初渡集』プリント配布

参考書：村井章介等編『日明関係史研究入門』(勉誠出版、2015)

桃木至朗編『海域アジア史研究入門』(岩波書店、2008)

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した参考文献を読む。

9. その他：なし

日本の五山僧が漢文で記した日記を読み進めながら授業を行います。漢文の初学者を歓迎します。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB62502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国王朝の政治と官僚制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国王朝の官僚機構と法律制度について基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅱー(1)及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅱー(2)及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅱー(3)及び法律制度の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅱー(4)及び法律制度の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅱー(5)及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅱー(6)及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅱー(7)及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅱー(8)及び行政区画の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅱー(9)及び人事制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅱー(10)及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅱー(11)及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅱー(12)及び法律制度に関する討論
14. 中国近世史の諸問題Ⅱー(13)及び人事制度に関する討論
15. 中国近世史の諸問題Ⅱー(14)及びまとめ

6. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65203, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

隋唐時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、則天武後の時代
- 5、玄宗の時代
- 6、安史の乱
- 7、安史の乱後の情勢
- 8、徳宗の時代
- 9、憲宗の時代
- 10、甘露の変
- 11、武宗の時代
- 12、武宗の廃仏
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

6. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート70%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

9. その他：なし

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中(6), **単位数：**2

担当教員：宮宅 潔 (非常勤講師)

講義コード：LB98809, **科目ナンバリング：**LHM-HIS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中国古代刑罰制度の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

The Problem of the Penal System in the Early China

3. 授業の目的と概要：

中国秦漢時代の法制、とりわけ刑罰制度と裁判制度について講義する。わが国にも大きな影響を与えた古代中国の法律・制度は、統一王朝のできあがる秦漢期に、その祖形ができあがった。ただしそこには後代と違う特色が見られ、古代的な制度が次第に変化していった過程が確かめられる。例えば秦代、さらにはそれより古い時代には「肉刑（身体毀損刑）」が行われており、それが漢代にも継承されたが、漢の文帝13年（前167）に至って廃止された。古代から中世へとむかう歴史のなかで、制度が如何に変化し、その背後に如何なる社会の変化が認められる

4. 学習の到達目標：

中国古代の法制の変遷に関して理解を深める。その知識の上に立って、古代社会の特質やその後の変化を俯瞰し、歴史事象を分析していく力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、「法」、「刑」の成り立ち
- 3、殷周時代の刑罰・裁判
- 4、春秋・戦国時代の変化
- 5、秦漢法制史料の紹介：睡虎地秦簡・張家山漢簡
- 6、秦漢時代の死刑とその種類
- 7、「棄市」とは？
- 8、秦漢死刑制度の構造
- 9、労役刑の起源と肉刑
- 10、秦漢時代の肉刑
- 11、秦漢時代の「労役刑」
- 12、肉刑の廃止とその背景
- 13、秦漢時代の裁判制度
- 14、秦漢裁判制度の特徴：ヨーロッパとの比較
- 15、総括

6. 成績評価方法：

授業への参加態度（20%）とレポート試験（80%）を総合して判定

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する

8. 授業時間外学習：

授業で紹介した論文、史料を精読すること

9. その他：なし

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB53502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き(史料の探し方や辞書・索引の使い方等)を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方
2. 明清史料研究 I - (1)
3. 明清史料研究 I - (2)
4. 明清史料研究 I - (3)
5. 明清史料研究 I - (4)
6. 明清史料研究 I - (5)
7. 明清史料研究 I - (6)
8. 明清史料研究 I - (7)
9. 明清史料研究 I - (8)
10. 明清史料研究 I - (9)
11. 明清史料研究 I - (10)
12. 明清史料研究 I - (11)
13. 明清史料研究 I - (12)
14. 明清史料研究 I - (13)
15. 明清史料研究 I - (14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55404, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、5 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. 学習の到達目標：

中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的手続きを理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記について
- 2、五胡十六国時代の概略
- 3、『晋書』載記の関連史料
- 4、『晋書』載記読解の実例
- 5、『晋書』劉曜載記を読む (1) 劉曜と陳安
- 6、『晋書』劉曜載記を読む (2) 羊皇后の死
- 7、『晋書』劉曜載記を読む (3) 劉曜、その父と妻を葬る
- 8、『晋書』劉曜載記を読む (4) 劉曜と陳安との戦い
- 9、『晋書』劉曜載記を読む (5) 劉曜、陳安に勝利
- 10、『晋書』劉曜載記を読む (6) 氏・羌、劉曜に服属
- 11、『晋書』劉曜載記を読む (7) 張茂、劉曜に服属
- 12、『晋書』劉曜載記を読む (8) 劉曜の子、劉胤
- 13、『晋書』劉曜載記を読む (9) 劉胤を永安王に封ず
- 14、『晋書』劉曜載記を読む (10) 楊難敵の動向
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1~4、15 回に実施) 20%、発表内容 (5~14 回) 80%

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

5 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。

9. その他：なし

東洋史基礎講読 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

semester：6, **単位数：**2

担当教員：大野 晃嗣 (准教授)

講義コード：LB63502, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究Ⅱー(1)
3. 明清史料研究Ⅱー(2)
4. 明清史料研究Ⅱー(3)
5. 明清史料研究Ⅱー(4)
6. 明清史料研究Ⅱー(5)
7. 明清史料研究Ⅱー(6)
8. 明清史料研究Ⅱー(7)
9. 明清史料研究Ⅱー(8)
10. 明清史料研究Ⅱー(9)
11. 明清史料研究Ⅱー(10)
12. 明清史料研究Ⅱー(11)
13. 明清史料研究Ⅱー(12)
14. 明清史料研究Ⅱー(13)
15. 明清史料研究Ⅱー(14)

6. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

7. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

9. その他：なし

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65403, **科目ナンバリング：**LHM-HIS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底する。最後に、先行研究を批判的に検討した考察を試みて発表する。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. 学習の到達目標：

漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について
- 2、『晋書』載記関連研究論文検証批判の実例
- 3、『晋書』劉曜載記を読む (1) 劉曜と石勒との対峙
- 4、『晋書』劉曜載記を読む (2) 劉胤、大単于となる
- 5、『晋書』劉曜載記を読む (3) 親御郎 (親衛隊) の創設
- 6、『晋書』劉曜載記を読む (4) 張駿の動向
- 7、『晋書』劉曜載記を読む (5) 劉曜、石勒に敗北し、捕虜となる
- 8、『晋書』劉曜載記を読む (6) 劉曜の死
- 9、『晋書』劉曜載記を読む (7) 前趙の滅亡
- 10、『晋書』劉曜載記を読む (8) 「史臣曰」の条、前段
- 11、『晋書』劉曜載記を読む (9) 「史臣曰」の条、中段
- 12、『晋書』劉曜載記を読む (10) 「史臣曰」の条、後段
- 13、前趙国に関する研究発表 (1)
- 14、前趙国に関する研究発表 (2)
- 15、授業の総括

6. 成績評価方法：

小テスト (1、2、15 回の授業時に実施) 10%、発表内容 (90%)

7. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012年)。その他、授業中に紹介する。

8. 授業時間外学習：

3 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。

9. その他：なし

『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。